

## 霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター  
鹿児島地方气象台

< 火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続 >

新燃岳では、本日（9日）15時12分頃から傾斜変動を伴った火山性微動が発生し、15時53分頃まで継続しました。また、9月23日頃から火山性地震が増加しています。

監視カメラによる観測では、噴火は発生していません。

国土地理院による地殻変動観測結果では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります。

新燃岳では、今後小規模な噴火が発生するおそれがあることから、5日23時35分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。新燃岳火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石に警戒してください。

噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

### 活動概況

新燃岳では、本日（9日）15時12分頃から傾斜変動（図3）を伴った火山性微動（図1）が発生し、15時53分頃まで継続しました。火山性微動の発生は、2017年6月11日以来です。

噴火は、発生していません。

火山性地震は、本日（9日）18時まで144回観測しました（速報値）。

監視カメラによる観測では、8日、9日に噴煙が火口縁上200mまで上がりました（図2、図4）。

国土地理院による地殻変動観測結果では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線で伸びの傾向がみられており、霧島山の深い場所で膨張している可能性があります。

---

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、東京大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び宮崎県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平26情使、第578号）。

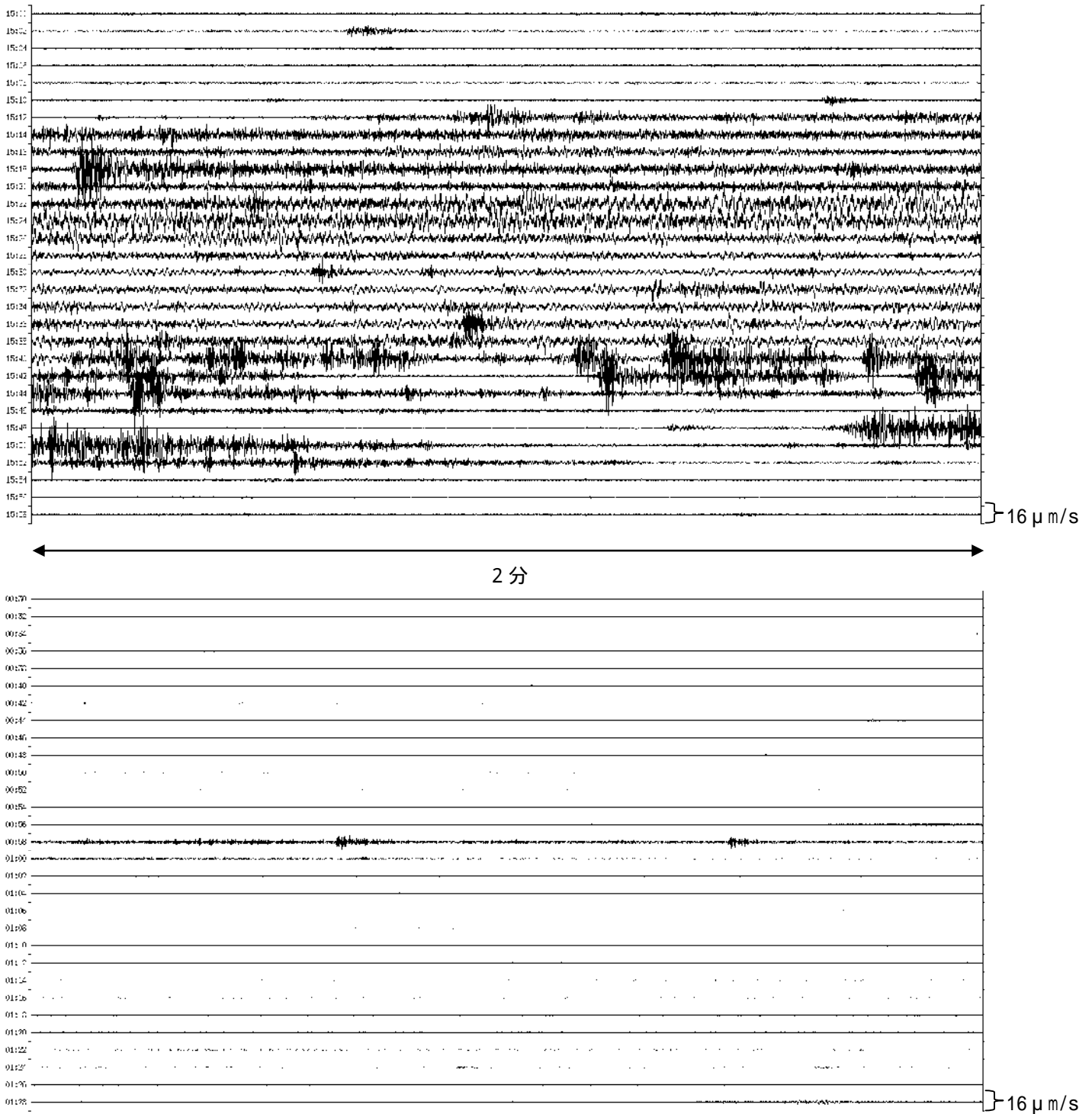


図1 霧島山（新燃岳） 火山性微動の発生状況  
（新燃岳南西観測点南北成分、上図：2017年10月9日15時00分～16時00分  
下図：2017年6月11日00時30分～01時30分）

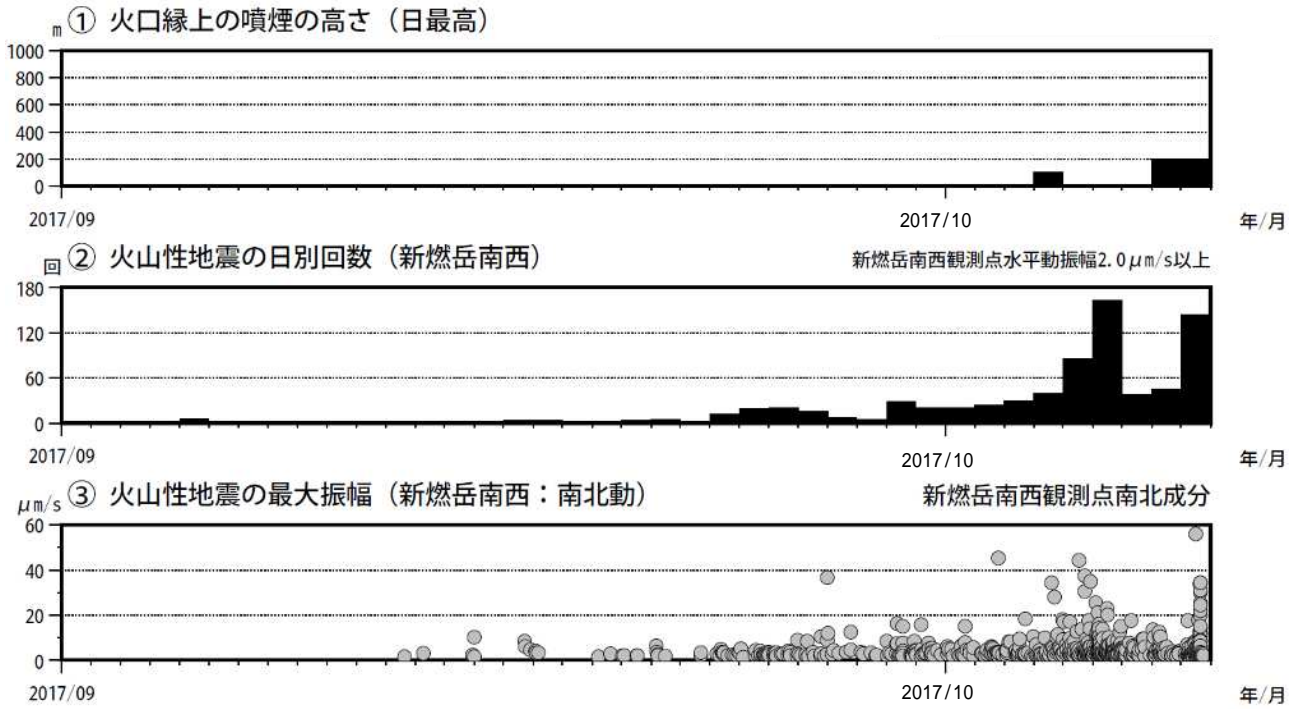


図 2 霧島山 (新燃岳) 火山活動経過図 (2017 年 9 月 1 日 ~ 2017 年 10 月 9 日 18 時)

- ・ 9 月 23 日頃から火山性地震が増加しています。
- ・ 10 月 8 日、9 日に噴煙が火口縁上 200m まで上がりました。

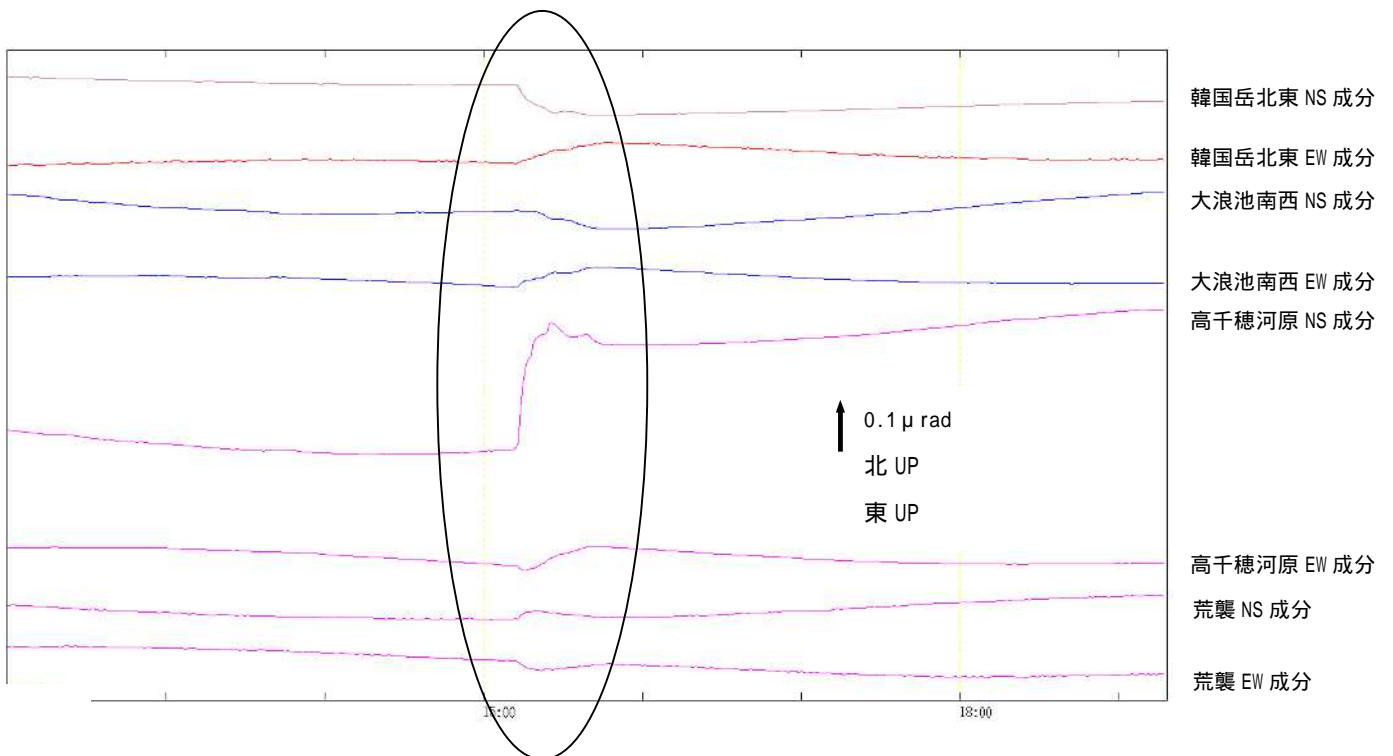


図 3 霧島山 (新燃岳) 傾斜変動 (2017 年 10 月 9 日 12 時 ~ 19 時)  
15 時 12 分頃に発生した火山性微動に伴う傾斜変動



図 4 霧島山（新燃岳） 噴煙の状況（10月9日、韓国岳監視カメラによる）  
・噴煙が火口縁上 200mまで上がりました。

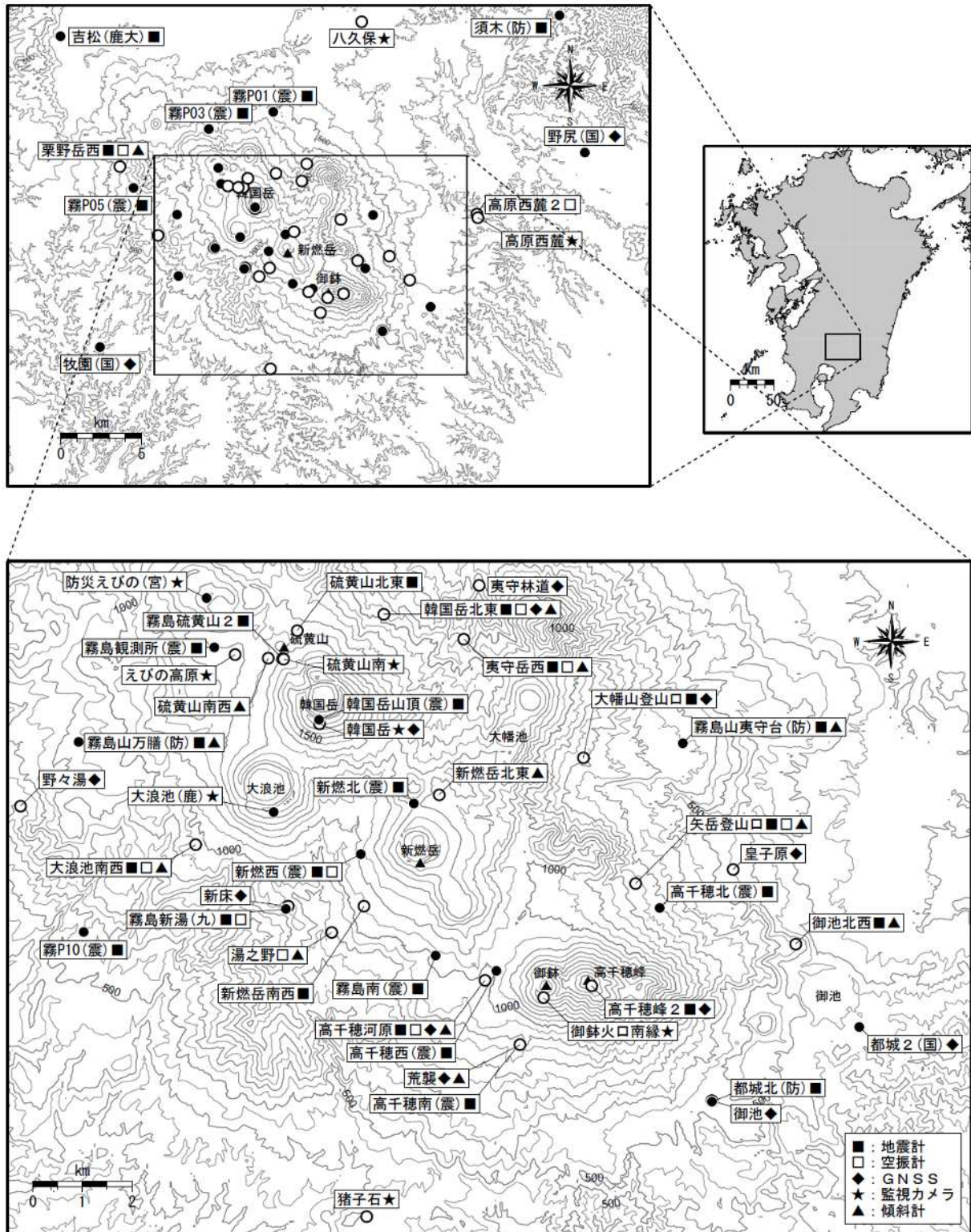


図 5 霧島山 観測点配置図

小さな白丸 ( ) は気象庁、小さな黒丸 ( ) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(震) : 東京大学地震研究所  
 (九) : 九州大学、(鹿大) : 鹿児島大学、(宮) : 宮崎県、(鹿) : 鹿児島県